

別紙 A

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立富田中学校

校長 大橋 賢二

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

保護者や地域の方々が主体的に学校運営に参画し、本校の教育目標である「確かに生きる」の実現に向けて協働します。その中で特に、「授業を大切にできる学校」「一人ひとりを大切にできる学校」「保護者や地域と協働し高め合う学校」の三つの決意を意識して取り組みます。運営協議会は、「生徒の実態を把握し、協議を行う」「学校教育活動を地域に広める」「生徒と地域の関わりを深める」の3つの視点を大切にしながら推進します。特に、コロナ禍の現状において、少ない回数となっても大切にしていきたい活動です。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事

本年度は昨年度より1回減となる3回の会議を開催しました。コロナ禍において開催を見送ることも考えましたが、学校長の目指す学校づくりビジョンを具現化するためにも、できることを工夫しながら実施してきました。CS運営協議会委員のみなさんによる、会議開催時の授業見学は1度しかできませんでしたが、他には文化祭を参観いただいたり、校長が発行している「学校だより～友愛～」や学校HP等を観ていただくことによって、学校生活の様子や今の生徒の実態を少しずつでも把握していただくことができました。また、NRTの結果に基づく学力の状況分析、学校評価アンケートの結果、行事を通じた学校の状況等、情報の提供を大切にしてきました。

これらを踏まえ、学校の教育活動や運営方針等の状況について客観的な評価をいただくとともに、学校に対する様々な角度からの意見や助言等をいただきました。

① PTA除草活動【8月21日（土）コロナ感染症拡大防止に伴い中止】

恒例行事となっていた「PTA除草活動」。例年、保護者の皆さんや地域の皆さん、教職員が一緒になっての取組が「PTA除草活動」です。昨年度は190名もの保護者・地域の皆様にご協力をいただきました。しかし、今年度はコロナウイルス感染防止の観点から、残念ですが中止としました。しかし、10月に入り、少しずつ日常の学校生活が戻ってくるのに合わせて、生徒と教職員が一緒になって除草活動に取り組みました。そんな姿を見て、地域の自治会の方々やCS運営協議会委員の方々、登校時の見守り活動を継続いただいている方が、休日等を利用して学校周辺の除草作業に取り組んでいただきました。そのような地域のみなさんの、あたたかい気持ちがしっかりと生徒にも伝わっていると思います。教育活動に安心・安全に取り組める環境を作っていただきました。



② 防災学習(炊き出し訓練、防災講話等)【11月13日(土)土曜授業として】

11月13日の土曜授業。2年生では『防災学習』に取り組みました。『自助・共助・公助』の観点から災害への備えについて意識を高めることを目的とした内容です。

1. 備蓄倉庫見学

教室棟5階にある備蓄倉庫を実際に入り、富田地区、中学校、四日市市が共有する備蓄倉庫には何が備えてあるのか、それらはどのように何のために扱うのかを考えながら見学しました。富田中学校の備蓄倉庫見学からも、富田地区の自然災害への備えや災害に対しての学校の重要性も理解できたと思います。

2. 防災講話

「防災講話」の講師は、富田中学校で図書支援員として長期にわたりお世話になっている澤田浩一さん。毎週月・水・金に図書室で子どもたちへの図書にかかわる支援を継続していただいています。伊勢湾台風に遭われた経験談を交えながら、自然災害の脅威についてお話しをいただき、今わたしたちにできることを考えました。

普段から、子どもたちにあたたかく寄り添いながら対応していただく澤田さんが講師だからこそ、子どもたちは安心して話を聴くことができました。

3. α米の炊出し

ニイミ産業さんを講師として、『ガスボンベの取り扱い』について学びました。

子どもたちが「安心・安全」に体験学習ができるように、とても丁寧で分かりやすく、何より、実演を交えた説明をしていただきました。ガスにかかわるお話を初めて聴く子どもたちは興味津々に学んでいました。その後、プロパンガスのコンロを実際に使用し、α米の炊き出しを行いました。

ニイミ産業さんには、炊き出し訓練でガスの使用が必要なくなるまで、あたたかく子どもたちの活動を見守り、ご指導いただきました。出来上がったお米を調理室にて代表の2班がパック詰めをしました。クラスの仲間のために心を込めて行いました。



③ 中学生と語る富田の未来【3月17日(木)富田中学校体育館(実施予定)】

2年生は「富田再発見」と題して地域調べ学習を行いました。『祭り』『産業・商店街』『神社仏閣』『交通』『防災』『環境』の6つのテーマをもとに、2年生各班にて一人一台タブレットを活用し、実際に富田地区に出かけ、「富田をよくしていくために」「富田の魅力」「富田の良さ」について考えたことをPowerPointにて各班でまとめました。その後、クラス発表を行い富田地区の現状について学ぶこともできました。

また、国語の授業においては「富田紹介短歌」にも取り組み、自分の好きな富田を個性豊かな短歌にまとめ、「中学生と語る富田の未来」の会場で展示する予定です。

本来は、1月21日（土）に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、3月17日（土）に富田中学校体育館で実施する予定です。

当日は、富田地区まちづくり協議会を中心に10名の地域関係者をお招きし、PowerPointにての発表にてのプレゼンテーション（発表）と、参加生徒と地域関係者のみなさんとの「討論会」を実施いたします。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

- 運営協議会では地域で活動されているみなさんに委員となっただき、中学校の様子を知っていただく機会を設け、多くの意見をいただきました。コロナ禍においてもタブレットを活用した授業の工夫などを知っていただくことができました。
- 生徒アンケート「地域の人や保護者と協働した学習や活動に取り組むことができましたか」は67%。保護者アンケート「お子さんは、地域の人や保護者と協働した学習や活動に取り組んでいましたか」は65%、職員アンケート「地域の人や保護者と協働した教育活動を計画的に実施しましたか」は50%等で「思う」「どちらかといえばそう思う」という回答は昨年度と比較すると、それぞれ6～12ポイントほど低い結果となりました。今年度も昨年度に引き続きコロナ禍において、多くの地域行事や連携した行事がなくなりました。しかし、地域に目を向ける視点は必ずしも地域に出かけ、行事等に参加することだけではないことに気づくことができました。コロナ禍でも、できることを継続して取り組んでいきたいと思えます。



3 今後に向けて

次年度の「学校づくりビジョン」をCS運営委員協議会で提示し、今後の学校経営の計画、立案、評価等について意見をいただきました。これまでも、富田地区の地域の方々や保護者のみなさんには、教育活動に大変熱心に参加、協力をいただけてきました。そのように、本校は「地域の中の大切な学校」です。コロナ禍における今だからこそ、CS運営協議会が核となって、地域—家庭—学校が一緒になって「地域全体で子どもたちを育てよう」とする気運を高めていきたいと思えます。今後も開かれた学校づくり、保護者や地域と協働し高め合う学校づくりを進めていきたいと思えます。